

## 「吉野作造さんへ」

森田 賢

作造さん、なぜあと十五年生きれなかったのですか。あと十五年いきていけば日本でいうぬいの人になつていたのに。

話は変わりますが、ぼくは何年前か、吉野作造記念館に行つたけど、ぜんぜん作造さんがどんな考えをもつていたとか分かりませんでした。でも今日は記念館に見学に行つて、ぼくのテーマの作造さんが生きていたころの日本の様子のことがよく分かりました。それから発表会もして作造さんが子供のころのことや、どんな考えをもつていたかなどが分かりました。作造さんってすごい人なんだと思いました。

古川高校では一年生を対象に記念館見学を始めて、今年で三回目になります。今回も記念館の見学後のレポートから二作品を紹介します。

## 記念館を訪ねて

一年 相沢 友博

私が吉野作造について知つていたのは、その名前と大正デモクラシーに関係した人物程度のものでした。今回の記念館見学は、その人生を深く知ることができたと思つています。彼の学業は入学する学校で常に首席、東京帝国大学でも首席であつたことは特筆すべきことと感じました。

なぜ彼はそれ程にまで勉強を取り組んだのでしょうか。吉野は自分が世の中を変え、社会に真つ正面からぶつかつて国民に多くの理解を求めようとしたからではないでしょうか。吉野は教授として学生にもその思想を展開し、多くの支持を得たのです。またそれだけではなく、欧米に渡航し、欧米の生きた政治に触れて、帰国後には、日本の実情を汲んだ上で「民本主義」を主張したのです。

## 記念館に行つて

一年 桑田 久平

ぼくは、自分と同じ古川市で生まれた吉野作造という人物について民本主義を主張した、歴史の人物の一人としか思いませんでした。

しかし、この吉野作造記念館に行つて吉野という人物を身近に感じ、また多くの知識を得ることができました。

吉野が民本主義を主張した理由は、日本の政治の在り方が欧米に比べあまりにも後れていることを憂い、天皇制を認めただけで国民が中心となつて、自分たちの幸せを目指すための主張でした。この主張をするにあつた吉野の気持ちはどうだったのだろうか。自分が思うには多分、吉野は小さい頃から好きだつた本や芝居などでイメージを豊かにし、教授時代に困つた人の相談を聞いたりと多くの人と接したことから他人を思う気持ち、そのためにはどうすべきかを考え、それを一つ一つ解決していった吉野にとつては、すでにこの主張によつてこれからの未来が変わることを頭の中でイメージしていたような気がします。

このことから吉野作造は、自分を犠牲にしてまでも社会のため、人のため、これからの未来

のために役立とうと努力したすばらしい人であると感じるのです。

また、家族、両親、多くの友達との出会いなどは吉野作造の生きていく支えになつていふことが、彼の生涯から感じられます。

古川市が生んだ、吉野作造を身近なものとして学習する機会を得たことは大きな感動です。自分はこれから、どのような道を歩んでいくのかは、これからの自分の努力の成果ですが、吉野作造のように、ほんの少しの小さな事でも社会のため、仲間のため、自分自身の未来のために役に立つてみたいと思ひました。

吉野作造という人物は自分に何かを語りかけているような気がしました。